

見つめてみよう、子どもの心の成長

レインボー学園の事務所のある「ハワイ日本文化センター」には、茶室や武道をする施設があります。茶道や武道をする方をよくお見かけします。茶道や武道などの修行における段階を示した言葉に、「守破離(しゅ・は・り)」という言葉があります。「守る、破る、離れる」という意味です。具体的には、次のことを指します。

「守」とは、最初の段階で、指導者の話を守る。できるだけ多くの話を聞き、指導者の行動を見習って、指導者の価値観を自分のものにしていく。すべてを習得できたと感じるまでは、指導者の指導の通りの行動をする。「破」とは、次の段階で、指導者の話を守るだけではなく、破る行為を試みる。自分独自に工夫して、指導者の話になかった方法を試してみる。「離」とは、最後の段階では、指導者のもとから離れて、自分自身で学んだ内容をさらに発展させる。

この言葉を、学校にあてはめてみると、子どもの年齢によって「求められる子ども像」の基準が変わります。「守(しゅ)」つまり幼稚部、小学校の間は先生の言うことを守ってよく聞くことが「求められる子ども像」とされます。中学生は「破(は)」の時代です。小学生と違って、保護者や先生との距離をとる時期です。先生の話聞きましようと言われて、素直に聞けないことが多くなります。言われたことをそのままするのではなく、自分で考えるといった心の成長が見られます。言われたことだけをするのではなく、自分はどうだと主張する時期です。この時期に大切なことは、「守」があってこそその「破」の段階で育つものがあることです。高校生以上になる「離(り)」の時代は、保護者から離れて精神的にも自立が求められます。自分で考えて、行動することが、「求められる子ども像」になります。

こうして守破離の年齢変遷とともに「求められる子ども像」の基準も変わっていきますし、変わることが求められます。学校も保護者も、こうした時期を見守ることが大切だと思っています。特に、子どもたちが何か失敗したときは、失敗したことはともかく、大切なことはそのあとです。失敗したあと、何をどうするか、どのような対応をしていくか、そこを大切にしたいと思っています。その時、お子様が心の成長段階として、守破離のどの段階にいるのを考えて、対応をお願いします。また、お子様の心の成長段階を理解したうえで、保護者にはぜひとも「カベ」になってもらいたいです。ここぞと言う時に「ダメなものはダメ」と真っ向から勝負して欲しいと思います。特に、思春期の子どもには、真正面から当たっていくことも場合によっては必要です。たとえば「どうせ大人に言っても無駄だから」と思って何もしていない子どもがいたとしても、保護者としてどう対応するか、言うべきことはきちんと行って、直接子どもに当たっていくことも必要だと思っています。

○保護者の皆様をお願いします。

Line, SNS (ソーシャルネットワーキングサービス) 等にお子様の写真を掲載して、問題になることがあります。その写真にご自分のお子様以外に他のお子様が入っていて、ついうっかり掲載して、そのことが肖像権など法的に問題になることがあります。SNS 等にお子様の写真を掲載する際は、十分に注意していただくとともに、その写真に友人が入っていないかも十分に注意されるようお願いいたします。



< 5月 >

20日特別日課、個人懇談、

27日特別日課、個人懇談、

< 6月 >

3日特別日課、個人懇談、

10日前期前半終了、